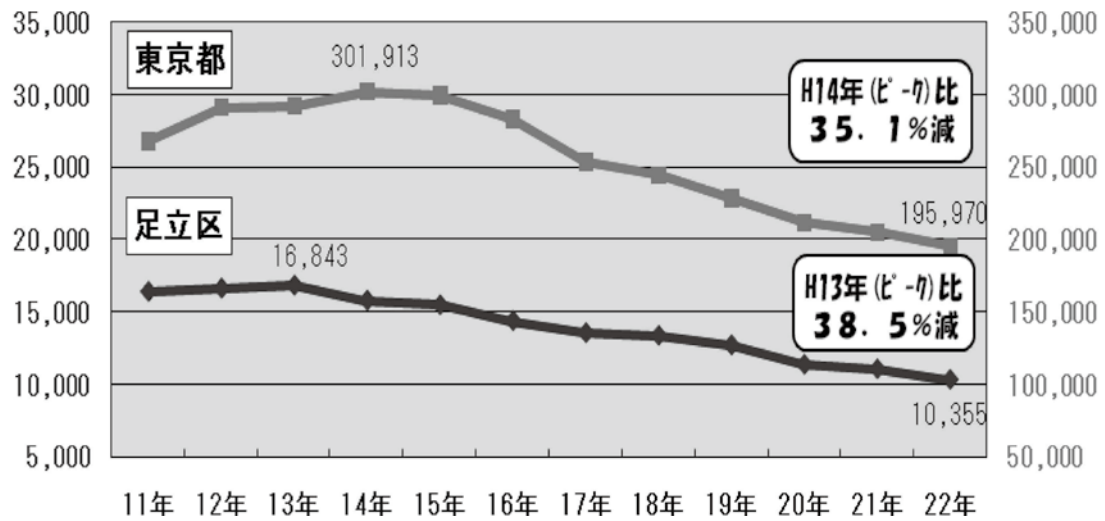


足立区役所（東京都）

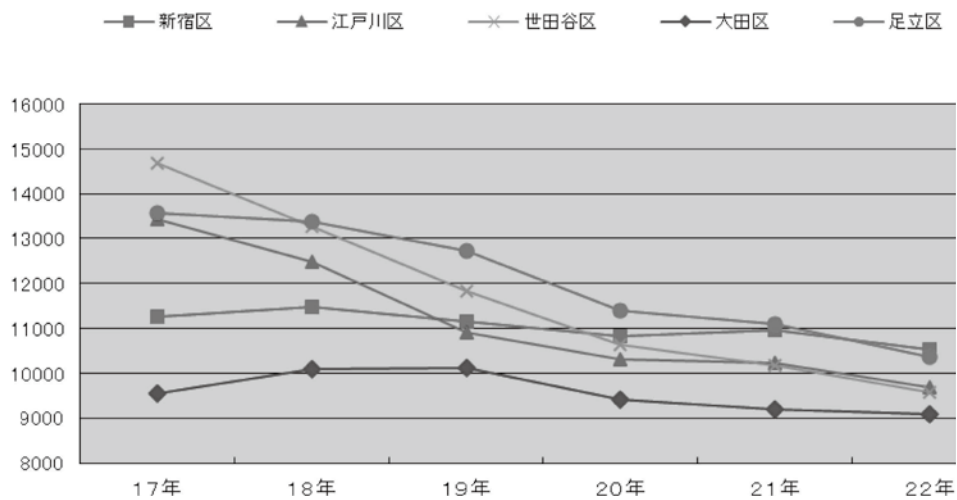
足立区ビューティフル・ウィンドウズ運動～「美しいまち」は「安全なまち」～

1 足立区内の犯罪情勢の推移

- 刑法犯認知件数は、平成 13 年をピークに減少



- 平成 18 年以降 4 年連続、都内ワースト・ワン



2 足立区ビューティフル・ウィンドウズ運動の推進

(1) ビューティフル・ウィンドウズ運動とは

ニューヨーク市で実践され効果をあげた「割れ窓理論」に習い、「美しい窓」、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという区独自の運動です。

防犯ボランティアへの支援としては、物品購入支援（ユニフォーム、停止灯等）等を実施しているほか、毎週1回区ホームページにおいて犯罪発生状況（街頭犯罪・侵入盗・自転車盗）を提供しています。また、毎月20日の「区民防犯の日」には、防犯ボランティア団体と連携して、区内主要駅周辺での被害防止キャンペーンを実施しています。

(2) 警視庁生活安全部と「治安再生事業の推進に関する覚書」の締結

ア 締結日 平成21年12月21日

イ 覚書

- ・ 足立区は、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を始めとするハード・ソフト両面にわたる治安再生事業に全総力を挙げて取り組みます。
- ・ 警視庁生活安全部及び区内警察署は、同事業の円滑かつ効果的な推進を図るため、犯罪実態の分析、情報提供、事業計画の企画・立案等に関する助言、防犯パトロール団体に対する支援その他必要な協力を積極的に行い、これを支援します。 など

(3) 治安再生アクションプログラムの策定と基本方針

覚書に基づき、犯罪のない安全・安心なまちづくりを実現していく諸対策を盛り込んだ「足立区治安再生アクションプログラム」を協働策定しました。

- ・ 「足立区総ぐるみ」の犯罪防止対策を展開する。
- ・ 防犯環境設計による犯罪防止対策を推進する。
- ・ 社会における規範意識の向上対策を推進する。

(4) 重点施策4本柱

・ 治安再生 ・ 生活支援 ・ 美観飛躍 ・ マナー向上

3 本年度の取り組み状況

(1) 目標

平成22年は、刑法犯認知件数ワースト・ワンから脱却したことから、本年度も引き続きワースト・ワンからの脱却を図ります。また、併せて体感治安向上も図るためビューティフル・ウィンドウズ運動の区民認知度向上や、刑法犯認知件数アンダー1万件を目指します。

(2) 分析結果に基づく緊急対策～「がっちり」「ぱっちり」「ぱっちり」大作戦

- ・ 「鍵となる高校生をロックオン！がっちりロック大作戦」

高校生の自転車が被害に遭う割合が高いことから、信用性の高いシリンダー式リング錠取付け作戦を区内高校で実施しています。

- ・ 「ひったくりはイヤ！ぱっちりカバー大作戦」

区内スーパー等で自転車かごカバーの装着キャンペーンを実施しています。

- ・ 「泥棒、近づくな！ぱっちりセンサーライト大作戦」

防犯診断を実施した町会及び区内駐車場を対象にセンサーライトの配布設置を実施しています。

足立区役所（東京都）

東京都足立区長の近藤やよいと申します。今回このような場で、23区ある中で私共1区だけ発表させていただけることを非常に名誉なことと思っています。

今日は、私共が取り組んでおります「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、皆様に2点ぜひご理解いただきたいと思っています。

まず、そもそもビューティフル・ウィンドウズとは何かというのが1点目。そして、こうした治安対策に、警察ではなく行政が積極的に取り組まなければならないのかという、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の展開理由、これが2点目になります。

防犯ボランティア活動に熱心に取り組んでいらっしゃる皆様ですから、ビューティフル・ウィンドウズと聞いたときに、ニューヨークのジュリアーニ市長が提唱したブローケン・ウィンドウズ理論を連想される方もいらっしゃると思います。ブローケン・ウィンドウズ理論は、徹底的な取締り、摘発ということで、警察側が主体となった取組だと理解しておりますが、私たちの「ビューティフル・ウィンドウズ運動」は、もちろん警察にもご協力いただいて、行政と地域を巻き込んだ犯罪抑止環境を整える総合的な運動であるご理解いただければと思います。

それでは少々お時間をいただきまして、発表をさせていただきたいと思います。



運動推進の背景

足立区は東京の北東部に位置する区で、面積は23区中3番目、人口は67万人で23区中5番目という、大きな自治体でございます。御陰様で都市基盤整備、交通網等の整備が進んでまいりまして、ここ3年間で2万人ほど人口も増加し、とくに若い世代の人口流入が続いております。都市基盤整備の進捗に伴って、「暮らしやすい」とお感じの区民の方が平成22年度、85.7%ほどいらっしゃったということでございます。

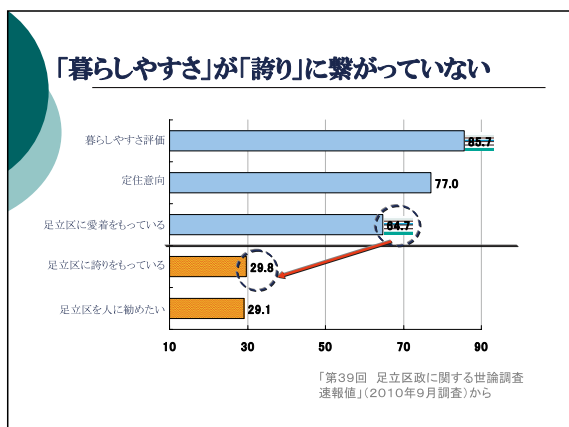
ただ、ここにいいことばかりではない、私共の悩みがございます。それは、他区の方が足立区をどういうふうに見ていらっしゃるかというアンケート調査で、「治安が悪いイメージがある」等のマイナスイメージが多かったことです。あとで、答えた方に「足立区に行ったことがありますか。」と聞くと、「行ったことがあります。」と聞くと、「どこ場所にあるか知っていますか。」と聞くと、「わかりません。」という答えが返ってきました。何もわからなくても、足立区と聞くと漠然とこういうイメージを多くの方が抱いているという状況でございます。

また、足立区民は自分の区のことをどのようにイメージしているのかというアンケート調査を行うと、結論からすると、住んでいる人たちも「自分たちの区は治安が悪い」とイメージしているという状況がございます。公園が多く、緑が多い、買い物が便利といったプラス要因と同様に、治安が悪いというイメージを足立区民自体がもっている。「生活が便利」と答えた方は8割強いらっしゃる中で、

他区から見た足立区のイメージ

- スウェット、ジャージで出歩いている人が多い。
- 若者がコンビニの前でたむろしている。
- ニュースで流れる事件発生場所で、足立区の名前をよく聞く。
- 自分は大田区(田園調布)に住んでいるが、足立区は治安が悪いと思う。
- 足立ナンバーの車は、怖い人が乗っていたり、車高が低いものが多い。

ADACHI CITY



このようなイメージをもたれる理由は何だろうか。これを分析することからはじめました。「暮らしやすい」と答えた方が85%、「これからも住み続けたいと思う」と答えた方が77%、「愛着をもっている」と答えた方が64%いるにもかかわらず、「誇りをもてる」と答えた方は半減してしまいます。そして、「人に足立区に住むことをすすめたい」と答えた方は3割を切ります。こういう状況にあります。

つまり、暮らしやすいし、住み続けたいけれども、愛着はあるけれども、人に胸張って「足立区民です」と誇れるところまでは至っていないという、複雑な区民感情をもっている方が多いというのが足立区の実情です。

私共は、「誇りがもてない」と答えていらっしゃる方が5割いらっしゃる、この現状を非常に重く受け止めています。今は、家賃が安いから、若く給料の少ない時期は足立区に住むけれども、ある程度可処分所得が多くなったら誇りのもてるようなまちに住み替えよう。というような思いが透けて見えるような気がするからです。もっと端的に言うならば、足立区は多くの区民にとって、仮に住むまち、ゲートウェイ的な一過性のまちというふうに捉えられているのではないかと、そんな深刻な危惧を抱いております。

高齢化社会の中で、地域住民が支え合っていかなければ地域はなかなか成り立っていかないという現実問題がある中で、こうした地元で誇りがもてないという人の多くは、ボランティア活動や町会活動を中心とした地域活動に参画をされません。やはり、愛着をもっているわけですから、それをもう少し高めて、足立区を誇れるまちと受け止めてくれるような区民の割合を増やしていかないと、次の飛躍がない。ということで、私共行政が取り組んでいるのが、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」です。

誇りがもてない理由としては、治安が悪いということの以外に、生活保護を中心とした財政的な面やお子様方の教育レベルの問題もあります。この2つについても私共今熱心に取り組んでおりますが、これらの問題は一朝一夕に好転するものではございません。しかし、治安の問題、犯罪件数を抑えていくということについては、警察、行政、地域の方々のご協力をいただければ、ある程度早い時期に結果を出せるのではないかと。ということで、私共は足立区のボトルネック的な課題、他にもありますが、まずは、「防犯を一つの突破口」としてこの治安の対策に区をあげて取り組む決断をしたわけです。

では、足立区は本当に犯罪が多いのかと言いますと、刑法犯の認知件数は2006年から2009年まで4年連続で都内ワースト1を記録しています。こうした数字があるからこそ、区民の皆さん方がたぶん足立区は治安が悪いというふうに受け止められるのではないかと思います。ただ実は、人口や面積比で見ると、人口1万人当たり東京都で犯罪が一番多いのは千代田区です。面積1km当たりだとトップは新宿区で足立区は16位です。しかし、ニュースで取り上げられるときには絶対的な数、1年間の刑法犯認知件数だけが取り上げて、足立区がワースト1というという報道がされます。人口比にしたら足立区は14番目などとは書いてもらえないのです。ですから、いくらこのこ

犯罪件数 ここを比べて！

人口比なら

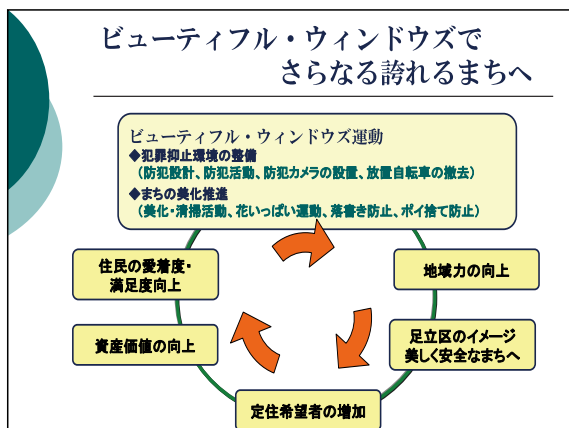
- ・都内14位／62団体
- ・区部9位／23団体

面積比なら

- ・都内16位／62団体
- ・区部15位／23団体

	人口1万人当たり	面積1km当たり
1	千代田 879	新宿区 579
2	渋谷区 843	豊島区 551
3	新宿区 823	台東区 468
4	台東区 267	渋谷区 464
5	港区 264	千代田区 357
6	豊島区 252	中央区 300
7	中央区 247	中野区 296
8	武蔵野市 225	墨田区 291
9	立川市 223	武蔵野市 290
10	国立市 165	荒川区 284
11	墨田区 162	港区 267
12	福生市 158	板橋区 238
13	昭島市 156	北区 231
14	足立区 152	文京区 201
15	中野区 147	目黒区 198
16	羽村市 145	足立区 195

とをご説明しても、区民の方、また区外の方にもなかなか理解されない以上、絶対数を減らしていくことが私共の至上命題だということになります。そして、全体の犯罪件数の中で、3割強は自転車の盗難です。凶悪犯罪が多発する、女性が夜歩けないような、そんな地域では決してないのです。しかも犯罪件数は平成13年をピークに減少に転じ、平成22年では1万件程度と平成13年比で38.5%も減少しています。ただ、犯罪は減っていても、そうした現状を肌感覚で区民が感じ取るところに至っていない。それは私たちのPR不足もあるだろうと反省しています。



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」は、犯罪抑止環境を整備することと、区民の皆様方のご協力もいただいて、まちの美化を徹底的に行っていく。つまり、行政、警察、地域の人たちが一緒になってこの運動に取り組むことによって、まず人間関係を密にして、地域力を上げていこう。そして、犯罪を少なくしていくことによって、徐々にではあっても、足立区の負のイメージをプラスに変えていこう。そして、さらに定住してくださる方々を増やしていこう。ということが、

つまりは足立区にお住まいの方の資産価値の向上につながっていく。それが、ひいては住民の地域に対する愛着や満足度を高めていくことにつながっていく。こういうことがスパイラルとしてうまくプラス方向に回っていったときに、この「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の終着点がある、というふうに考えて今展開をしております。

現在までの活動状況と今後の取組

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を推進するにあたって、まず、私共は警視庁生活安全部と「治安再生事業の推進に関する覚書」を締結しました。

足立区内には4つの警察署がありますが、4の警察署で治安に対する取組、重点犯罪も違いますし、温度差もあります。ですから、私たちが4つの警察署それぞれと連携を結んでいても、足立区全体としての統率のとれた活動ができません。そこで、もう一つ上の、警視庁の本部と足立区が覚書を結ぶことによって、警視庁の方から4警察署に対してトータルに組織的な対応を指示していただくことが可能になりました。3か月に1度は生活安全部長にもご同席いただき、警視庁、足立区4署合同の治安対策の戦略会議を開きながら、常に後でお話する「アクションプログラム」を更新する形で事業の進展状況をチェックしております。

これは覚書を結んだ一つの成果だと思いますが、犯罪の発生場所をデータで短期間に警察から私共にいただけるようになりました。常にこれを足立区のホームページに掲載して、犯罪の起こった地域の方々にはお渡しをして、それぞれの地域の防犯パトロールの際にとくに重点的にその犯罪の起こった場所をパトロールしていただくようにしています。

(犯罪発生マップを見せながら) これは平成21年の取組前の空き巣に関する犯罪発生マップですが、

治安再生アクションプログラム

足立区・警視庁総ぐるみの治安対策の展開

【防犯意識向上の取り組み】

- がっちりロック大作戦、ばっちりカバー大作戦、ばっちりセンサーライト大作戦
- ビューティフル・キーパー (清掃活動、防犯パトロールなど)
- 職員による青色防犯パトロール『足立区特別機動署ら隊』

【防犯設計による取り組み】

- まちの防犯診断の実施
- 防犯カメラの設置 (都県境各備付近、主要駅周辺)
- 防犯設計ガイドライン、防犯設計タウン規定制度
- 放置自転車対策の強化 (撤去作業365日実施、駅前店舗駐輪2時間無料サービス)

【規範意識向上の取り組み】

- モラル・マナー向上運動 (あいさつ運動、モラル標語の募集)
- ゲートウェイ犯罪対策 (落書き消し、シャッターアート、万引き防止対策)
- 園休開催に伴う規範意識向上の取り組み



御陰様で1年経ってこういう状況になりました。少なくとも、赤い箇所（発生箇所）が多かったところですから、これがかなり薄くなって、効果が出てきていることがおわかりいただけると思います。とくに駅周辺の治安に問題があることから、主要駅周辺で24時間365日、誰かが駅の周辺に立って声をかけたりパトロールをしているという状況をつくろうということで、ボランティアの皆様が展開されている夜間パトロールや駅前の放置自転車対策などの活動外の時間帯を埋める形で、国の緊急雇用対策予算を活用して「駅前キーパー」というパトロールマンを駅前に配置しました。駅前キーパーには、声かけ運動や自転車対策など、一人で何役も果たすような活動をしていただいております。

美化推進も行っています。緑を増やしたり花を増やしたりするのに、たとえば学校の運動会などで、父兄や生徒さんが自宅から学校まで歩いてくる途中にゴミ袋の中にゴミを拾ってきてもらって、それを学校にもってきていただいた父兄や生徒さんには花の苗や種をお渡ししてゴミと花をトレードするというような運動もしております、この秋にも95件、72,000人の方に参加をいただく計画になっております。



路上喫煙防止パトロールにも取り組んでいます。足立区では、禁止特定区域での喫煙には厳しく規制の過料を科しております。この対応については、警視庁のOBの方に当たっていただいております。

また、民間の方々にお任せしているわけにはいけないということで、先日私共の職員による青パトの警ら隊が発足しました。青パトを運転するには特別な講習を受けなければなりませんので、4,000人弱の職員が全員講習を受けることを目標にしながら、区民の方々

と共に青パトでのパトロールを推進してまいります。

これは新しい事業となりますが、ある一定規模の宅地開発事業者、戸建の開発がある場所には、私共の制定した防犯設計のガイドラインに添った開発をしていただき、そこを防犯設計、つまり非常に犯罪に強い街区であるという認定をさせていただくという制度を新たに立ち上げました。

ということで、なんとか「治安が悪い」という区民の方々のお答えの割合が31.7%から少しではありますが、26%に下がりました。区民の皆様方の体感治安を

防犯設計ガイドラインと認定制度

①防犯設計ガイドライン

防犯への配慮を推進するうえで道路・公園や駐車場・駐輪場の整備、拠点開発事業等を対象にガイドラインを作成

②防犯設計タウン認定制度

ガイドラインに基づき、計画の初期段階から道路や建物の配置計画、防犯設備等について事業者と協議を行い、防犯設計の基準を実現した宅地開発事業を区が認定



例) 見通しの確保された道路、公園とその周辺環境イメージ

向上させるためには、少しでも、区民の皆様に協力をさせていただき、参加をさせていただくことが必要であると思います。そして、自分たちのまちを自分たちでキレイに安全に守っていくんだという機運が広く薄く醸成されたときに、はじめて私は足立区民の体感治安が向上すると思います。

これからも、地域の皆様方、警視庁、そして私共総ぐるみで、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を展開していき、少しでも多くの区民の皆様方が誇りをもって「足立区出身です」と言えるようなまちを目指してまいりたいと思います。

再来年、東京では国体がございます。足立区では東京武道館で、柔道、剣道、2種目が行われます。そこで、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」のキャラクターである「ビュー坊」も柔道着、剣道着を着てお迎えします。おもてなしをするにも、キレイなまち、安心なまちであることが大変重要ということで、「ビュー坊」にも登場してもらい、ビューティフル・ウィンドウズ運動の盛り上げ、PRに努めたいと思います。

●質問 運動に関して、区民の参加、あるいは若い世代の参加の状況はいかがでしょうか。

○回答 区民の方々にご協力をいただけるよう、さまざまな方面にお声かけをし、小中学校のPTAや町会、老人クラブなど、多くの方々にご協力いただいております。手をあげていただいた方々に、帽子やジャンパーなどの基本的な資機材の貸与をさせていただいて、協力をお願いしているところでございます。各地域でそれぞれ団体も出来上がってきておりますし、区民の方々の参加・協力の輪が着実に広がっております。

●質問 行政側と警察側の連携には、お互い縦割りの組織ということで、非常に調整が難しかったのではないかと思います。もしそうした苦労話があれば聞かせていただければと思います。また、運動を通して最終的にどのようなまちづくりを実現させていきたいのか、その辺の考えもお聞かせ願えますか。

○回答 私、大学を卒業して警視庁で6年ほど勤務しておりました。警察側からと行政側からと2方向から地域というものを見る経験をしたわけですが、その中で、防犯協会や交通安全協会等でお世話になっていらっしゃる方というのは、ほとんど地域の町会長さんや大きな会社の社長さんという方々で、そういう方々はイコール私たち区役所もお世話になっている方々で、警察協力者・協力団体と行政に対する協力者・協力団体はほとんどイコールです。そうした方々に、同じ交通安全や防犯等をテーマとした啓発の部分は行政がリーダーシップをとる形で行い、警察には警察でなければできない逮捕、検挙といった業務に少しでも力点を置いていただけるようお手伝いをさせていただけないかというのが、私共の基本的な考え方でございます。地域の安心安全ということに関しても、ただ治安対策ということだけではなく、高齢者の孤独死の問題等もございます。大勢の人たちが自分たちのまちを少しでもよくしていきたい、子どもをきちっと守っていききたいと意欲を持っていられるわけですから、そうした気持ちが形になるようなお手伝いをしていくのが私たち行政の一つの役割かなと思います。お互いにあまりおんぶに抱っこをしてしまうと、立ち行かない、続かないということがありますので、うまく関係性をとりながら、お互いWin&Winの関係になるように進めていきたいと思っています。